

こころと向き合って 活動中

長弓寺薬師院副住職・岡崎良仁さん(27)

うつ病や不登校など、こころの悩みを抱える人は少なくない。生駒市上町の古刹、長弓寺薬師院の副住職、岡崎良仁さん(27)は臨床心理士。お寺の中に「こころの相談室」を設けて活動し、不登校の子らが通う適応指導教室のスタッフも務めている。

岡崎さんは薬師院の長男に生まれ、自然にお寺を継ぐ気持ちになった。京都大教育学部で心理学、京都文教大の大学院で臨床心理学を学び、相談室を開いたのはこの4月のことだ。

職場や学校で、抑うつ症状が出て興味は染しめる「新型うつ」が増えている



岡崎良仁さん

長弓寺 真言律宗の寺院。行基が聖武天皇の命によって開いたという伝承がある。本堂は1279(弘安2)年建立の国宝。現在は薬師院など三つの塔頭寺院から構成されている。

る。「周囲が責めると、本人は殻を強固にするばかりです。カウンセリングは、相談者がいいと感じるかどうか。閉じられた部屋の閉じられた時間の中で心を通わせ、濃密な関係を築くように心がけています」

奈良市や京都府宇治市の適応指導教室では、学校に通えない子らと向き合う。一緒に遊び、時には勉強を見ることも。「行政が把握している不登校児の人数からすると、参加者が少ない。現場の先生たちがあまり知らないのか、何とか学校へ戻そうと指導しているのか。もっと利用してほしいのですが」

岡崎さんが相談室を開こうと思ったのも、あるつまりすぎがきっかけだった。

大学院進学に一度失敗し、高野山専修学院(和歌山県高野町)で1年間の修行に。持ち込める私物は電気スタンドと電気カミソリだけ、外出も週2回3時間

のみという厳しさだった。そこで知識と経験の大事さに気づき、臨床心理士を目指す気持ちが強まった。

「お釈迦様は、『人生は苦しい』ということを発見

しました。その中でいかに生きていくかが仏教で、臨床心理学とつながっている。相性がよかったのですね」

「こころの相談室」は要

予約(090・8166・5810)、メール counseling.yakushin@gmail.com)。初回は無料、2回目以降50分3千円。(編集委員・小滝ちか子)